

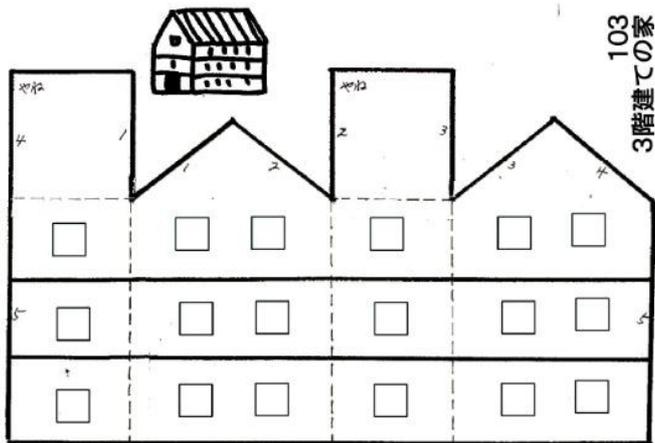
「ぐるっと茗荷谷・街たんけん(8)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

理科とは直接関係ないが、街づくりのジオラマ活動をもう少し(あと2~3回)紹介してみたい。実に楽しい活動で、簡単な工夫で、どこの学校でも立体的な街づくりの活動ができると思うからだ。

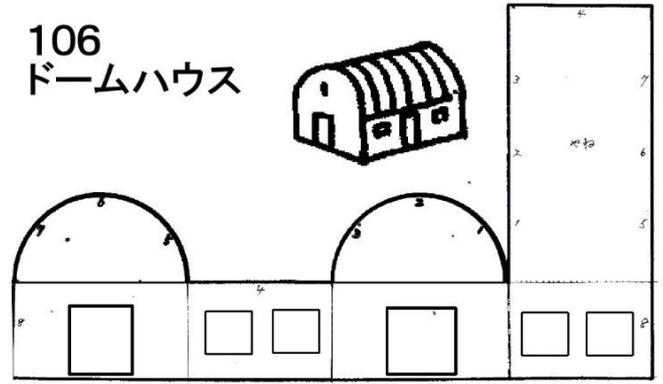


これは、建物の型紙を選んでいくところ。型紙は全部で20種類ほどあり、基本的な型に色を塗って、子ども自身が組み立てる。特に展開図の知識がなくても、切り取って折ってゆけば、自然と建物の形になるように設計した。



たとえばこれは「3階建ての家」の型紙。余計な説明や模様はなく、子どもが自由にアレンジできるようにした。接合する片同士に番号をつけたが、これは蛇足で、こんなものなくても子どもたちは簡単に組み立ててしまう。型紙で大切なことは、外周の辺が「一筆書き」になっていて、切り取った状態で1枚の型紙から建物が作れるようにすることだ。

106 ドームハウス



こちらは「ドームハウス」屋根が曲線状なので、ちょっと組み立てが難しい。しかし、子どもたちにかかると、いとも簡単に、美しく組み立ててしまう。



「3階建ての家」と「ドームハウス」は、色を塗って組み立てるとこのようになる。この班は、セロテープを内側から貼っているので、仕上がり美しい。これらは、アパート、小さな学校、マンション、体育館、車庫、駅舎など、いろいろな用途に使える。



基本的には、はさみとセロテープだけで組み立て可能だ。これなら、工作が苦手な子どもでも抵抗なく作業ができ、立体街づくりが、楽しく能率的にできる。